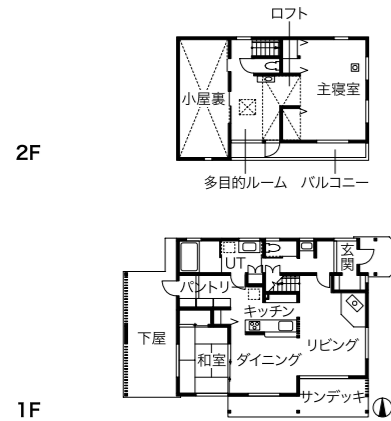


建築データ

- 設計 ■ (有)ササキ設計  
 施工 ■ (株)興建ハウジング  
 構造規模 ■ 木造・2階建て  
 延床面積 / 122.66㎡ (約37坪)  
 主な外部仕上げ ■ 屋根 / ガルバリウム鋼板、外壁 / ジョリバット吹付仕上 一部スギ板縦張、建具 / 玄関ドア : 断熱ドア、窓 : 断熱サッシ (内側樹脂+外側アルミ、Low-E ペアガラス)  
 主な内部仕上げ ■ 床 / カラマツフローリング、壁 / リフレッシュール張、天井 / リフレッシュール張 一部スギ板張  
 断熱仕様 ■ <充填断熱>床下 / スタイロエース II 50mm、壁 / セルローズファイバー 120mm、屋根・天井 / セルローズファイバー 200mm  
 暖房方式 ■ 薪ストーブ・床暖房・エアコン  
 概算工事費 ■ 2,800万円 (税込)

平面図



1. 木の香りが漂うオープンな空間。床・梁をはじめ随所に県産または国産無垢材をふんだんに使用し、家具も自然素材を採用入れた
2. 2階には将来子ども室に利用できるロフト付きの多目的ルームがある。さらに、2期工事を想定した未造作の小屋裏空間も。限られた予算の中で将来を見越した配慮が随々に
3. 脱衣室にある洗面台も、天板に広葉樹を用いた造作。使い勝手を考えて実験用の大型シンクを採用している
4. スギ板縦張りの軽快なラインがアクセントになった外観。自宅でも作業ができるよう、Hさんのたつての希望で庇を伸ばして下屋を設置。水まわりと直結した勝手口も設けている
5. リビングから間仕切りなくつながるダイニング。隣接する和室には昔の住まいの板戸を再利用した
6. 舞根湾を一望する立地を最大限に生かしたリビングに設置した薪ストーブは、災害時に暖房や料理などに使えて重宝。潮風の夕涼みが嬉しいウッドデッキは、リビングと床レベルを揃え、広がり感を演出

私たちの取り組み



かつて当たり前だった「地産地消の家づくり」を実践するため、17年前に林業家や製材業、大工、左官などの職人、工務店、設計士が集まり「杜の家づくりネットワーク」を旗揚げ。宮城の地域材であるスギの森林、製材所の見学会を年に2回実施しています。このほか、仲間と共に学びと実践の催しを幅広く実施しています。



(有)ササキ設計  
代表取締役  
佐々木 文彦

問い合わせ先  
 (有)ササキ設計 仙台事務所  
 仙台市青葉区八幡1丁目10-14 SAU04  
 TEL.022-268-6578  
 http://www.sasakisekkei.co.jp/

よき地産地消の家をよみがえらせたい。そんな思いから、地域材のスギを生かした自然派の家づくりに取り組むようになりました。

唐桑町のカキ漁師で被災者のHさん夫妻(30代)は、私たちの考えに共感し住宅の再建を依頼。震災補助金も利用して、高台にある防災集団移転団地に、自然や地域と共存する住宅を実現しました。

限られた予算でも、間取りを工夫して、県産スギのほか、ヒノキやアカマツ、クリ、サクラなどの国産材を採用。多様な木目に彩られた温かく健やかな空間に仕上がりました。今後も、地域材と職人のネットワークを生かし、Hさん夫妻のような子育て世代も手が届く「現代の民家」を実現していきたいと考えています。

時代と共に新建材が台頭するようになると、そうした地域の伝統は失われ、代わりに生活環境に起因するシックハウス症候群などの病気が増えてきました。そうした負の循環を断ち切り、再び古き

- シックハウス症候群と無縁の家
- 県産スギを中心に自然素材を多用
- 子育て世代も手が届く現代の民家

設計事務所編 | 01

ササキ設計